

ふたりのコラム

August, 31, 2021

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイブルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

処暑（しよしよ）を過ぎ・・・



皆様いかがお過ごしでしょうか。またこのところ、非常に蒸し暑い日が戻ってきて、私は、夏の疲れた体にちょっとこたえる日々です。

さて、今回、佐野市からの要請で、当園自粛（家庭保育）のご協力をお願いしておりますが、1号認定で、休みの間ご家庭で過ごされていた子どもたちは、登園をとっても楽しみにしていたことでしょう。また、2号認定で、普段バンピーニ利用の方も、忙しい中、ご家族のご協力なども得ながら、

家庭内保育のご協力をいただいている方もいます。もちろん、エッセンシャルワーカーなど、どうしても保育を利用しなくてはならない皆様は、不安の中利用されていらっしゃるかもしれません。

現在佐野市は、栃木県内で一番感染者数が多いそうです。そのようなわけで、今回、佐野市から保育・教育施設に、このようなご協力のお願いがされることになりました。子どもたちが登園することを楽しみに待っている中、また保護者の皆様もお仕事が休めないなどのそれぞれのご都合のある中、それぞれの形で、ご理解、ご協力をありがとうございます。

私たちも、子どもたちのためにできることを考え、クラスの先生と楽しい手遊びなどで、家庭内保育を少しでも楽しんでいただけるように、また、クラスみんなが揃った時に共有の話題が持てるように、この時期に大切にしたいことが、少しでもかなえられるような配信を、定期的に行っていきます。クラス担任が、心を込めて送る映像をぜひ楽しみにしてください。

おうち時間を楽しく・・・

家事や、お仕事をしながら子どもたちとかかわるのは大変なことかと思えます。素材を用意し、子どもとともにモノづくりをしながら、そして、子どもがそのもので自立して遊べるといいですね。それは保護者の方が楽になれると同時に、子どもが自立して遊ぶ…という、大事な成長の姿につながることで、子どもが自ら遊べるようになるには、適当な素材や大人のかかわりも必要です。

あかみ幼稚園の皆さんは、普段からそのようなおうち時間を過ごされている方も多いと思いますが、いくつか紹介しよう。



- ① 素材を使った製作活動・・・素材を用意し、はじめ一緒に遊ぶことで、その後子どもが自分で遊ぶことができそう！

小麦粉粘土遊び（準備物:小麦粉・塩・水・必要に応じて食紅など・ビニール袋かボウル）



小麦粉等に水を少しずつ加えながら混ぜてこねます。耳たぶ程度になるのが、良い状態です。この時、粉の状態からねばねばになり、最終的にモチモチした感触に変化します。

このような素材の変化を親子で楽しみながら、粘土を作る過程を楽しんでみてはいかがでしょうか。

そして、できた粘土でいろいろなモノづくりを楽しみましょう！

段ボールのおうち / 箱を使った迷路やドールハウスづくり

少し大きめの段ボール（電気屋さんや薬局などでもらえるかも）の

一部を切り抜き、そこに入るだけで楽しい場所に…

- ② 簡単おやつ作り・・・親子で一緒に遊びながらできる！

餃子の皮を使った簡単ピザ/にんじんホットケーキ

※少し涼しい日には、庭やベランダで、ピクニック気分でおやつを食べるのもいいですね

おやつ作りは私より、きっとみなさんのほうがいろいろなレシピを持っていることと思います。

- ③ プランターで野菜作り・・・はじめ一緒に植えることで、継続的にかかわることができる！

幼児の観察には、収穫までの期間がなるべく短いものがよいです。これからの季節ですと、プランターでも

育てやすく、1か月ほどで収穫できる**ラディッシュ**がおすすめです。他にも、**ルッコラ**（発芽までで3～7日）、**ほうれん草**、（収穫まで1か月）などが簡単とのことですよ。

子どもとの時間を楽しみ、お互いの信頼関係を深めあう良い時間にしていただければと思います！！

大人も楽に…

コロナ禍で、いろいろな制約が続く生活で、気持ちが疲れてしまうこともありますよね。

大人の心にゆとりがあると、子どもがわがままをして困らせるようなときも、冷静に対応でき、結果として、子どもも大人の言うことを受け入れることができます。反対に余裕がないと、大人がイラっとしてしまうことにもなりかねず、子どもを頭ごなしに怒ってしまったりして、良い解決が見いだせないこともあります。

自分に余裕がないな・・・と思うときは、担任はもちろん、副園長やカウンセラーが対応いたします。カウンセリング・・・なんて思うと、敷居が高く思えてしまうかもしれませんが、そんなことはありませんので、気軽な気持ちでお声がけください。ご自身の心を軽くすることになります。園まで、連絡をお待ちしています。

（文責：中田）

《0・1・2歳児》

まだ蒸し暑い日が続いていますが、厳しい残暑もあと少しでしょうか？

新型コロナウイルスが栃木県、そして佐野市においても猛威を振るっています。日々の感染対策をしっかりと行い、安全に保育ができるよう努めていきたいと思っています。保護者の皆様にも引き続き、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「自分で！！」と「できない！！」を揺れ動く2歳児

ある日のこと・・・

私がトイレに向かうと、2歳児の子数人がいました。一人の子が座ってズボンに足を入れ、あっという間にスルスルと履いていました。その様子を見て私が「Mちゃん、すごいね！ズボン履くの上手になったね」と声を掛けると、得意げな顔で「履けるよ」と答えてきました。近くにいたS君も「僕も履けるよ」とズボンを必死に上げようとしていました。ちょっと引っ掛かってしまっていたようなので「先生手伝ってあげようか？」と声を掛けると「自分でやる！！」とちょっと不機嫌そうな顔に・・・。私が「じゃあ先生、応援する



よ。がんばれS君」というと、近くにいたMちゃんも「がんばれ、がんばれ」と声を掛けていました。どうしてもズボンの後ろ側が引っ掛かっていたので、S君に気付かれないようにそっと直すと、スルッとズボンが履けました。その瞬間、本当に嬉しそうに「できた！」と満面の笑顔になっていました。そしてその日の午後、またトイレでS君と一緒にになりました。お昼寝明けということもあり、テンションは低めな感じでした。私が「S君、ズボン上手に履けるんだよね」と声を掛けると、「できない」と座ったまま履こうとせずでした。「そっかあ、じゃあ先生が手伝ってあげるよ」というとS君は頷き、私が持ったズボンに足を通し始めました。

午前中はやる気マンマンだったS君ですが、午後には甘えたい依存モードになってしまいました。このように気まぐれで気持ちが揺れ動きやすいのは2歳児ではよくある姿なのです。「自分でできるよ」といっても、まだまだ2歳児、自立に向けて進んでいても、まだ歩みだしたばかり、自分でやりたいという思いやこだわりはあるものの、甘えていたい思いも強いのです。この時期は、甘えて依存しながら自立していく時期でもあります。昨日はやりたがったのに、今日はやりたくない、手伝ってほしい、そんな子どもたちの気持ちを汲みとり、「自分でできるでしょ？」ではなく「じゃあ今日は手伝うよ」とやさしく寄り添うような心がけています。お家でもただの甘えと思わずに、根気良く付き合ってくださいね。子どもは、甘えられる人がそばにいることで、安心して自立への一歩を踏み出していくのです。



はじめの一步！！

つくし組の子で「違いがわかる男」(6月号参照)になったという子の話をしましたが、最近その子のさらなる成長を目撃しました。

はいはいから伝い歩きが上手になり、私が近づくとニコニコしながらも、やや距離を保っていたのですが……。つい先日、私がつくし組の子と遊んでいた時に、その子がひょいっとつかまり立ちをして手を放そうとしていました。

その姿を見ていると、はじめは恐る恐るといった感じですが、手を放した瞬間、満面の笑みでこちらを見てきました。思わず私も「T君、すごいね、たっちできたね」と声を掛け、手ばたきをすると、ニコニコしていました。その後数秒でストーンとお尻をついて座ってしまいました。一人でたっちできたことが本当に嬉しそうでした。少しすると、また、ひょいっとつかまり立ちをして、手を放していたT君。私が「T君おいで」と手



を広げると、真剣な顔で一歩、二歩、三歩・・・私のところまで歩いてきました。「すごい！！あんよ上手になったね」というとその顔は、本当に嬉しそうでした。まだ慣れない足取りですが、歩けるのがうれしくて仕方ないといった様子です。こうした瞬間に立ち会えるのは、子ども同様、私たち保育者も本当にうれしい気持ちでいっぱいです。

はいはいでの移動ができるようになると、その後つかまり立ちが安定し、伝い歩きで移動ができるようになります。その後、手を放して一人で立ってられるようになり、バランスを取りながら少しずつ歩けるようになっていきます。もう赤ちゃんと呼ぶのをためらうぐらい、様々な冒険へ果敢にチャレンジするようになっていきます。

歩けるようになると、自分の意思で思ったところに行ける喜びから、主体的に行動することが増えていきます。歩くことによって、自分の欲求、目標、感情が著しく育っていきます。

また、歩くことで、手が自由になり、その手を自在に操りながら、探索行動がさらに活発になっていきます。「これは何だろう」「面白そう」と自分の意思にそって行動していくことができるようになり、他への興味も広がっていきます。そしてその行動が自分自身の発見へとつながっていくのです。

歩くという行動一つにおいても、子どもの発達の意味はとても広く、深いんだなと妙に納得しながらも、こうした発達過程にある子どもたちにとって、私たち保育者のていねいな関わりも重要であり、子どもたちの日々の冒険のアシストを担っていきたいと思っています。



(文責：新井)